

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600251		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム笑顔の村三番地 あんず(1階)		
所在地	石狩市樽川3条3丁目4番		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0177600251-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0177600251-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和3年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑う」という人間が持つ素晴らしい力、「笑顔」が人を癒す力、そんな人を幸せにする「笑顔」をスローガンにしています。暮らされる方、働いている職員、お越しくださる方全員が「笑顔」になれる「笑顔の村」を作っていきたいと全職員で取り組んでいます。職員は、毎日笑顔絶やすることなく、利用者と共に過ごす時間を大切にし、利用者一人一人の生活パターンを把握し、楽しみや役割を持ちながら、その人らしく、安心して居心地の良い生活の場作りを心掛け、日々支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りのバス停から徒歩圏内にあり、周辺は多様な福祉施設が点在している住宅街に位置しています。町内会主催の敬老会参加や神社祭の見物、大型公園の散歩は地域の方々と触れ合う機会になっていますが、コロナ禍により自粛状態が続いています。家族との面会は別室で10~15分程度ですが、お互いの安心感に繋がっています。職員は、面会や外出に制限がある中、室内レクリエーションを充実させ、季節ごとの行事や習わし、誕生会では特別食を用意し、利用者から「みんな美味しかった」と好評を得ています。日常では、職員の支援のもと四季折々の飾り物を作ったり、習字や塗り絵に勤しみ、家庭菜園や鉢物の花などへの水遣り、洗濯物干しや取り入れ、繕い物など家事全般に力を発揮しています。コロナ禍が収束した折には「外食をしたい」と、さらなる感染症予防対策に努めています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2ユニット体制への変更を機に職員皆で意見を出し合い、「笑顔を決やさず、心豊かに、その人らしく、安心できる生活を大切に」という新しい理念を作り、日々、それに基づいた支援を心掛けている。	地域密着型事業所としての役割を認識し、「笑顔」をスローガンにした運営理念を基盤としています。さらにユニットごとにケア理念を策定し、実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で町内会行事は相次ぎ中止。機会があれば参加できるよう支援している。数年毎に班長として活動も行っている。出退勤時等に職員は近隣住民の方々と挨拶を交わしている。	例年は町内会主催の夏祭りや敬老会に利用者で参加していましたが、コロナ禍により清掃活動や廃品回収への協力が主となっています。収束後は、町内会や芸能ボランティアとの交流を再開することとしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、何かホームとしてできる事があれば積極的に協力したいと、市の職員や地域の方に伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度運営推進会議を開催し、利用者の日常の様子やホームとしての取り組み等を写真や動画を用いて報告。会議で出された意見は全職員に伝えサービス向上に努めている。	自粛により代表者、統括施設長、管理者等で定期的に開催しています。管理者は、利用者の日常の様子、避難訓練、感染症予防対策、事故やヒヤリハット等を報告し、代表者は、第三者の視点で意見を述べています。話し合われた内容は、関係者と共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市の介護相談員が来訪、運営推進会議や地域ケア会議等で、情報交換を行い、協力関係の構築を図っている。新型コロナウイルス流行後は、電話や書類等でのやり取りが主となっている。	コロナ禍以前は、各種報告や疑問点等はそれぞれの行政担当者と直接関わりを持ち、意見や助言を得て運営に生かしています。現在は、FAXや電話・郵便で案件に対応しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等の適正化のための指針」「身体拘束、抑制防止マニュアル」等を用いて2ヶ月に一度研修を行っている。また職員は日常的に意見交換を行い、日々の支援に反映させている。交通量の多い道路に面した住宅である為、玄関は施錠しているが、利用者の希望時には開錠している。	指針やマニュアルに沿って定期的に適正化委員会や研修会を開き、さらに年1回、身体拘束や虐待に関して自己チェックを行い、共通理解を図っています。管理者は、職員が無意識に発する言葉などに注意を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社独自の虐待防止マニュアル他、グレーゾーンと呼ばれる状態についての資料も積極的に集め、研修を行っている。申し送り等でも不適切なケアがないか話し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、市の研修に参加した際の資料を振り返ったり、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約等の際は、担当者が十分な説明を行い、同意を得て諸々の書類を作成している。理解や納得のできない点があればいつでも連絡をさせていただけるよう体制を整えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置した意見箱は、堅苦しさを無くするため感想箱に変更。毎月郵送しているお手紙等でも、何かあれば気軽に職員に声を掛けてくださるよう伝えている。意見や要望はホームの運営に反映させている。	家族には毎月、ユニット毎に写真付きの便りや個別の手紙等で、利用者の日常や献立等を伝えています。都度の電話や別室での面会時に意見を傾聴し、ケアの改善やケアプランに反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から、職員と積極的にコミュニケーションを図るよう努めている。管理者会議等で職員の意見や提案について話し合い、会社の運営に反映させている。	代表者や統括施設長は都度事業所を訪れ職員の頑張りを評価しています。感染症予防対策に向けた提案や個別の要望等には出来る限り応え、職員のモチベーションを高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は積極的にホームを訪れて職員に声を掛け一人一人の努力や勤務状況等を把握している。昇給、労働環境、条件を整備し、職員の意欲向上等を図っている。令和3年5月からキャリアパス等級制度が導入されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は積極的な研修参加を呼び掛けている。事業所毎のバランスを考えて実践者研修等の参加計画を立て、実施状況は、管理者会議で報告している。新型コロナウイルス流行後は、各種マニュアルを使用したミーティング時のホーム内研修が主となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者や主任はグループホーム連絡会に参加し、情報交換等を行っている。他職員も地域ケア会議等に参加しネットワーク作りやスキルアップができるよう開催案内は、事務所に掲示、会議で使用した書類は皆で確認し、サービスの質の向上に役立っている。		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者と計画作成担当者が本人と面談を行い、困っている事や不安なこと、要望等聞き取っている。入居から1か月は特に会話を多くし、物事の背景に気を配りながら信頼関係の構築に努めている。		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学や面談、契約の際に、ご家族から不安な事や要望等を聞き、その後も何かあればいつでも遠慮なくお話いただけるよう伝えている。初期の段階から信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望むサービスの他、状態や背景を把握した上で優先順位を見極め、支援を開始している。他のサービス事業所等との連携や調整も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ、カレンダーめくり等、それぞれができる事、得意な事を積極的に取り組む事ができるよう配慮している。役割を持っていただき、共に支え合う関係であることも伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が変わった事があれば、ご家族に連絡している。来訪時や毎月のお手紙でも日頃の様子を伝え、共に支え合う関係を築くことができるよう努めている。ホーム主催の行事にも参加していただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙等のやり取りの他、新型コロナウイルス感染症予防対策の為距離を取って面会の支援をしている。玄関ホールには、貼り絵で作った北海道地図を展示、職員や利用者の出身地に顔写真、名産品を貼り付けている。日頃から思い出話に積極的に耳を傾けている。	コロナ禍により家族との外出や面会も制約していますが、電話や手紙、暑中見舞いなどを支援し、馴染みの関係性を大事にしています。昔話は、利用者との会話が弾む場面となっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の相性や特徴を把握し、日常の関わり合いの中で、孤立したり人間関係がこじれたりしないよう、さりげなく仲介役を務めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽にホームに立ち寄っていただいたり、相談していただけるような関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を記録に残し、希望や意向の把握に努めている。直接伝えられない場合には、ご家族から情報を得たり、日々の様子から思いを汲み取って本人本位に検討し、支援に反映させている。	利用者とは積極的に意思疎通を図り、思いの汲み取りに努めています。表現が困難な利用者とは、関わりで得た情報や家族からの言葉でヒントを得て要望を推察し、ケアに生かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の面談にて今までの主治医や生活環境、また、趣味等の聴き取りを行っている。入居後も日常会話から好きなこと、得意なことを聴き、日々の生活に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活の様子を介護記録に記入している。心身状態や日々の生活で変わったことがあったときは申し送りや連絡ノートで伝え、対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、必要な関係者の意見をもとに職員で話し合いをし、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。実施状況を把握するためにチェック表を活用している。	ケアプランは、3ヶ月ごとの更新時や急変時に作成しています。介護記録簿、申し送り時での情報、連絡ノート等を活用し、医療従事者の意見を参考に、全職員で利用者や家族の望む支援目標になるように協議しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子や変化等を一人一人記入している。連絡ノートや申し送り等で職員間での情報を共有しながら介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関と連携し、訪問診療や緊急時の往診、職員同行の病院受診を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事への参加、ホーム行事でのボランティアの方の訪問、訪問理美容等を以前は活用していたが、現在は新型コロナウイルス感染防止のため、自粛している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、訪問診療を受けている。何かあった際は24時間連絡し、相談できるようになっている。	受診先は自由ですが、利用者全員が訪問協力医による月2回の診察を受けています。都度歯科医の訪問もあります。他科受診は、家族の協力を得ながら職員が同行しており、情報は関係者と共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康チェックを受けている。健康状態で変わったことがあれば相談し、アドバイスをを受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先やご家族と連携を図り、早期に退院できるよう努めている。利用者毎の緊急医療情報を作成、定期的に更新し、医療機関との情報交換や連携に役立っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えられた場合は、協力医療機関、ご家族、職員との話し合いの場を設けている。事業所でできる事を説明し、本人やご家族の意向を取り入れて方針を決定、チームとして支援できるように取り組んでいる。看取りに係わる書類を整備している。	終末期への対応は、契約時に指針を説明し、アンケート形式で意向を確認しています。状態変化時には、利用者から要望を聴いていた家族や医師等と方針を共有し、尊厳ある看取り支援を開始しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてマニュアルを用いて、ミーティング等で研修を行っている。玄関ホールにはAEDを設置している。緊急連絡網を作成し、職員に配布している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、市消防署の協力の下、避難訓練を行っている。様々な状況に対応できるよう、日中、夜間、発生場所等の想定を都度変更している。運営推進会議を通し近隣の方に、有事の際の協力を呼び掛けている。	日中想定外の火災避難訓練を終了し、表出した課題も含め、次回は夜間想定訓練を計画しています。新人職員は、マニュアルや先輩職員から学びを得ています。近くの福祉施設と協力関係にあり、災害時備蓄品も随時用意しています。	危険区域ではありませんが、近年、想定外の災害が発生しています。地震に備え棚の上からの落下物の確認、入浴や排泄時等ケア場面での対応など、シミュレーションや実践的訓練への取り組みに期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	脱衣所はカーテンで仕切り、トイレ使用時には他の方が入らないよう配慮している。申し送りの際等は個々の名前を出さないようにしている。不適切な言動については職員同士で指摘し合い、改善を図っている。	職員が作り上げたケア理念には利用者への寄り添いと人格の尊重を掲げており、ケアの基本として実践しています。適切な接遇は、職員間で注意し合うなど業務の中で学びを深めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な声掛けでも、一方的な表現は避け、本人が自己決定できるような声掛けを心掛けている。ケアプランや献立作成の際等にも個々の要望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	リビングで談笑したり、自室にてテレビを見たり、思い思い過ごされている。入浴順も各々の希望に沿うことができるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候や季節感に配慮しながら、本人の好みに合った服装ができるよう支援している。髪形についても納得行くスタイルになるよう希望を取り入れ、日々の整容や定期的な散髪の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が1週間交代で利用者の方の嗜好もふまえ、作成している。誕生日には本人に食べたいものを聞き、メニューに取り入れている。盛り付けは新型コロナウイルスの感染予防として今は、利用者の方と一緒にしていないが、食事の片付けは一緒に行っている。	食事への要望を聞き、ユニットごとに献立を作成しています。菜園のミニトマトや差し入れの野菜を活用し、栄養バランスや彩りにも配慮して、麺類、丼物など食欲に繋がる内容になっており、誕生日などの行事食も「美味しかった」との言葉を聞いています。利用者は盛りつけや茶碗拭きなどで力を発揮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分は介護記録に記入し、全職員が把握できるようになっている。利用者それぞれに合わせた食事の量や形状、食器の工夫、栄養面や水分量に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、準備、見守りをし、介助が必要な利用者には介助するなど、一人一人にあった口腔ケアを支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日頃より、利用者の行動パターンの把握や排泄の間隔があいているときなど、さりげなく声を掛けて、気持ちよく排泄ができるように支援している。	職員の支援が必要な利用者もいますが、トイレでの排泄を基本としています。布下着や衛生用品の利用、ポータブルトイレの使用など、利用者の状態に応じた支援が行われ、不快な状況の軽減に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が不足しないような献立作りやホーム内の散歩、体操等、身体を動かすことを目標とし、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴は週2回行っており、順序や湯温等、利用者の希望を取り入れたり、入浴中に職員と歌を唄ったり、会話を楽しんだりコミュニケーションの場にもなっている。	毎日入浴できる態勢ですが、週2回を基本として入浴しています。状態によっては2人で介助を行い、湯船の中で寛げるよう支援しています。シャワー浴は、足湯をしながら湯船からお湯を掛け、浴室で衣服を着せるなど、湯冷めに配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が利用者一人一人の生活リズムを把握、共有し、希望や状況に応じ、睡眠や休息ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の情報は一人一人、ファイルを作成しており、職員全体で把握している。薬の効能、副作用、食材との相性等、細心の注意を払っている。服薬後の変化は協力医療機関に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの得意なことを役割として行っていただいている。季節感のある創作活動やレクリエーションで気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前までは、利用者の希望、体調、天候を考慮し、ホーム周辺の散歩や外出などを日常的に支援していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、実施できないことも多いが、玄関前での外気浴、花や野菜の水やりなど、戸外に出る機会を作っている。	コロナ禍以前は、周辺の樹木や花を眺めながらの散歩や大型公園で地域の方々との触れ合い、神社祭見物、外食など、外出の機会を多く持っています。現在は、事業所前での外気浴、野菜や花の手入れ、受診程度にとどまっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に相談の上、本人の希望や必要に応じ、物品の購入を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をしたり、手紙や年賀状等のやり取りができるよう、その都度、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節の装飾や利用者が作成した作品を展示している。利用者に四季を感じて心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	利用者にとって心地良い環境を整えています。殆どの利用者は居間に集まり、季節に因んだ装飾物の作成や習字、折り紙、塗り絵を楽しみ、新聞を読み、編みものをしたり、盛りつけなどの家事に勤しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人用のリクライニングソファを複数台、配置しており、思い思いの場所で過ごすことができるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら利用者にとって使い慣れた物や馴染みの物を置くことで、その人らしい環境作りをし、安心できるように配慮している。	居室にはクローゼットを設置しています。持ち込まれたテレビなど調度品等は、利用者の動線や使いやすさに重点を置いて配置しています。絵手紙や葉書、レクでの作品、写真等を飾り、安心感ある空間を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、身体機能の変化に合わせ、手すりの設置、居室の移動などの対応をし、安全に配慮している。居室前には名前、顔写真を明示し、わかりやすいよう工夫している。		